

写真に基づく香川県初記録のヤリマンボウ

澤井悦郎^{1,2}

¹ 〒 639-0200 奈良県北葛城郡上牧町 マンボウなんでも博物館

² 〒 684-0016 鳥取県境港市花町 8-1 海とくらしの史料館

はじめに

日本近海に出現するフグ目マンボウ科 Molidae の魚類は、クサビフグ *Ranzania laevis* (Pennant, 1776), ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* (Liénard, 1840), マンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758), ウシマンボウ *Mola alexandrini* (Ranzani, 1834) の 4 種である (波戸岡・萩原, 2013; 澤井, 2017)。国内におけるこれら 4 種は一般的に種判別が行われず単に「マンボウ」と一括りにされて漁獲データが取られており (澤井, 2021b), また外観が類似するマンボウとウシマンボウとヤリマンボウの 3 種は特に混同されやすく、スーパーマーケットや鮮魚店では一般的に「マンボウ」として展示・販売されている (澤井, 2024)。

ヤリマンボウはヤリマンボウ属 *Masturus* に属する大型魚類で、下顎が上顎よりわずかに前方に突出すること、マンボウ属 *Mola* より体型が鶏卵に似た卵形であること、舵鰭 (尾鰭に見える部位) の中央よりやや背側が後方に突出することなどの特徴からマンボウ科他種と形態的に識別可能であるが (波戸岡・萩原, 2013; 松浦, 2017; 澤井, 2017), 上述のような背景から本種の識別方法は一般的に普及しているとは言い難い状況にある。また本種の舵鰭突出部の著しく短い個体はマンボウ属と間違われやすく (山田・工藤, 1997; 澤井, 2024), 加えて日本近海における本種の漁獲はマンボウ属より稀であることも合わり (相良・小澤, 2002; 松浦, 2017), 本種の存在が一般的に知られていない要因になっている。

日本近海におけるヤリマンボウは青森県から沖縄県まで散発的に記録されているが (例えば, 波戸岡・萩原, 2013; 澤井, 2020), 上述のような状況から, 未だに未記録地や長期間学術的な報告がない都道府県がある。このたび, 本種の日本近海における出現記録を調査する中で, 香川県初記録のヤリマンボウと考えられる個体の情報が得られ, 瀬戸内海における本種の稀有な出現記録にもなると考えられたため, ここに報告する。

材料と方法

本研究で調査したヤリマンボウ 1 個体 (Fig. 1) に関する情報は, 土庄町役場農林水産課および写真提供者への聞き取り調査 (2024 年 10 月), 複数のマスメディア (産経新聞, 2011; 四国新聞, 2011; 読売新聞, 2011) から得られた。本個体は 2011 年 6 月 15 日に香川県の小豆島 (小豆郡土庄町甲) にある王子前漁港内 (34°28'48.0"N, 134°11'24.9"E) で遊泳しているところを地元住民によって発見され, 通報を受けた土庄町役場の職員と漁業者によって, たも網で捕獲された後 (Fig. 1A), 漁港の外に生きたまま放流された。本個体は土庄町役場の職員により捕獲時に船上でメジャーによって計測され, 全長約 85 cm であった。本個体の捕獲日の捕獲場所に近い海面水温 (屋島湾, 水深 1.5 m 地点, 午前 9 時計測) は香川県 (2003–2024) からデータを取得し, 18.6°C であった。本個体の種同定は先行研究 (波戸岡・萩原, 2013; 松浦, 2017; 澤井, 2017) にしたがって, 写真による外部

Sawai, E. 2025. First record of *Masturus lanceolatus* (Molidae) from Kagawa Prefecture, Japan, based on photographs. *Nature of Kagoshima* 51: 203–206.

✉ ES: Ocean Sunfishes Information Storage Museum, Kanmaki-cho, Kitakatsuragi-gun, Nara 639-0200, Japan (e-mail: sawaetsu2000@yahoo.co.jp).

Received: 21 January 2025; published online: 23 January 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-043.pdf

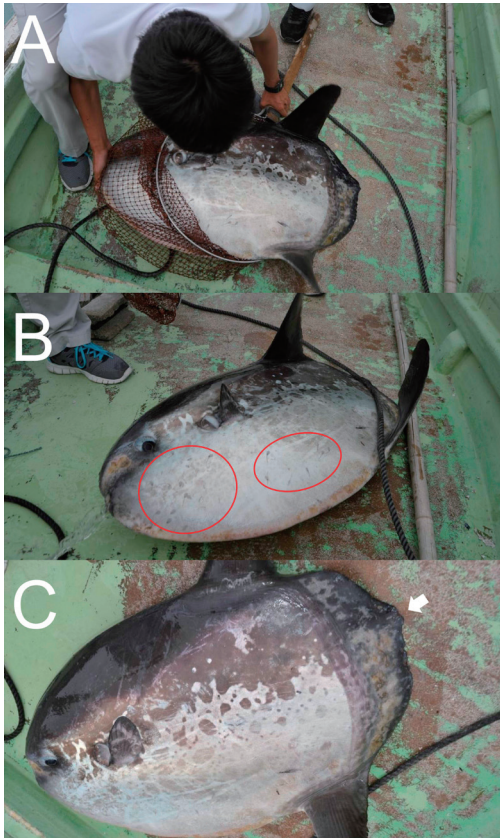


Fig. 1. An individual of *Masturus lanceolatus* (ca. 85 cm total length) captured by the dip net in Ojima Fishing Port (34°28'48.0"N, 134°11'24.9"E) on Shodoshima Island (Kou, Tonosho-cho, Shozu-gun), Kagawa Prefecture, Japan, on 15 June 2011. A: situation at the time of capture. B: anterior part of body. C: posterior part of body. Arrow: clavus median projection. Red circles: *Lepeophtheirus* sp. (parasite of the family Caligidae). Photographs by Masaharu Nakatsuka.

形態の観察を行った。

結果と考察

種同定と水温 本研究で調査したマンボウ科1個体は、複数のマスメディア(産経新聞, 2011; 四国新聞, 2011; 読売新聞, 2011)や現場関係者からマンボウと同定されていたが、下顎が上顎よりわずかに前方に突出すること (Fig. 1B)、体型が鶏卵に似た卵形であること (Fig. 1B)、舵鰭の中央よりやや背側が後方に突出すること (Fig. 1C 矢印)から本研究でヤリマンボウに再同定された。また写真から観察された特記事項としては、水揚げ後に口から水を吐いていたこと (Fig. 1B)、腹側面の体表にマンボウ属に寄生することで知られ

ている寄生性カイアシ類・ウオジラミ科 Caligidae の1種 *Lepeophtheirus* sp. が多数寄生していたこと (Fig. 1B 赤い円; 城戸ほか, 2016; 澤井ほか, 2017) が挙げられる。日本近海における本種のストレス反応や寄生虫に関する知見は非常に少ないため、今後さらなる調査が求められる。

ヤリマンボウの好む水温は一般的に 20–28°C であり (Seitz et al., 2002; 中村, 2017; Nyegaard et al., 2018)、本個体の捕獲日の捕獲場所に近い海面水温 (18.6°C) もそれに近い水温であった。気象庁 (2025) で 2011 年 6 月中旬の旬平均海面水温を確認すると、紀伊水道や豊後水道より南の外洋は 22°C 以上であったことから、おそらく本個体は好適水温帯であった外洋から小豆島近海に迷入してきたものと推察される (距離的におそらく紀伊水道を経由してきたものと思われる)。瀬戸内海は外洋と比較してマンボウ科の漁獲が極端に少ないが (相良・小澤, 2002; 澤井, 2021b)、水温的には本種が瀬戸内海に侵入することは十分に考えられ、本個体の事例のように過去にもマンボウと混同されて漁獲されていた可能性が考えられる。小豆島や瀬戸内海における本種の出現状況を知るためには、さらなる調査が必要である。

瀬戸内海における記録の再検討 瀬戸内海の海側に面している府県は和歌山県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、福岡県、大分県、愛媛県、香川県、徳島県の 11 つである (公益社団法人瀬戸内海環境保全協会, 2023)。本研究で調べた限りでは、これらの 11 府県のうちこれまでに文献上で知られているヤリマンボウの府県別の記録は以下のとおりであった [新規データの無い引用の繰り返し (魚類目録など) や情報が曖昧なもの (魚類図鑑など) を除き、各文献で新たなデータとして使用されたサンプルや情報 (同一個体の重複含む) の中で、府県が分かるもののみを示した]: 兵庫県 (山本, 1951; 森, 1956; 川上・一澤, 2012); 和歌山県 (宮脇, 1983; 中島ほか, 1987; 福田・御前, 1992; 御前, 2000, 2021; 池田・中坊, 2015); 山口県 (小林ほか, 2006; 園山ほか, 2020; 久志本, 2022); 徳島県 (澤井, 2021a); 福岡県 (吉田・澤井, 2019; Sawai et al., 2019; 芦

屋町役場企画政策課広報情報係, 2023); 大分県(立川・宮島, 2018).

また, 香川県の魚類に関する文献(香川県郷土読本刊行会, 1962; 猪又, 1966; 大林, 1999; 香川県農林水産部水産課, 2000; 香川県農政水産部水産課, 2004)にもヤリマンボウの情報は載っていない。よって, 本研究で調査した個体(Fig. 1)は小豆島, 香川県および播磨灘(瀬戸内海東部)初記録のヤリマンボウとなる。

瀬戸内海の範囲や湾・灘の区分は基準にする法令等によって多少異なるため(清水, 2013), 本研究では公益社団法人瀬戸内海環境保全協会(2023: pp. 1–2)の「瀬戸内海環境保全特別措置法による対象区域」を基準にしたところ, 山口県下関市の岬之町や彦島の記録(小林ほか, 2006; 園山ほか, 2020)は瀬戸内海の範囲に含まれた。一方, 魚類相の研究では上述の基準から外洋と接する海域である響灘, 豊後水道, 紀伊水道を除いた内海の範囲を瀬戸内海と定義することが多く(例えば, 波戸岡・花崎, 2017), その定義に従うと本個体(Fig. 1)は瀬戸内海初記録のヤリマンボウとなる。

謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり, 香川県のヤリマンボウ個体について, 中塚正春氏には写真を提供していただき, 土庄町役場農林水産課(特に渥美太輔氏)には情報を提供していただいた。また, 小豆島町役場農林水産課(特に萬代正道氏)には中塚正春氏の写真送付に関して助力をいただいた。四国新聞社, 産経新聞社, 読売新聞社の方々には本研究の問い合わせに対して対応していただいた。以上の方々に心から厚く御礼申し上げる。

引用文献

芦屋町役場企画政策課広報情報係. 2023. 生き物と地球のために今ぼくができること. 広報あしや, 1002: 7.

福田照雄・御前 洋. 1992. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧(2). 串本海中公園マリンパビリオン, 21(6): 2–3.

波戸岡清峰・萩原清司. 2013. マンボウ科, pp. 1746–1747, 2242–2243. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

波戸岡清峰・花崎勝司. 2017. 瀬戸内海産魚類標本目録. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 48: 1–204.

池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.

猪又康二. 1966. 讃岐の魚(改訂版). 猪又康二, 高松. 129 pp.

香川県. 2003–2024. 過去の水温. <https://www.pref.kagawa.lg.jp/suisanshiken/joho/old-suion.html> (17 Dec. 2024)

香川県郷土読本刊行会(編). 1962. 讃岐の魚. 香川県郷土読本刊行会, 高松. 128 pp.

香川県農林水産部水産課(編). 2000. 香川の魚. 香川県農林水産部水産課, 高松. 51 pp.

香川県農政水産部水産課(編). 2004. 香川の魚. 香川県農政水産部水産課, 高松. 115 pp.

川上 靖・一澤 圭. 2012. 鳥取県沿岸と周辺海域で記録された海洋動物(2010年~2011年), および大型ヤリマンボウ. 鳥取県立博物館研究報告, 49: 13–16.

城戸美紅・恩田紀代子・宮側賀美・北谷佳万・伊東隆臣・浅川満彦. 2016. 大阪・海遊館の飼育魚類から得られた寄生虫(第3報). 酪農学園大学紀要. 自然科学編, 41: 101–105.

気象庁. 2025. 旬平均海面水温. https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyoo/jun/sst_HQ.html (2 Jan. 2025)

小林知吉・堀 成夫・土井啓行・河野光久. 2006. 山口県の日本海沿岸域における海洋生物に関する特記的現象. 山口県水産研究センター研究報告, 4: 19–56.

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会. 2023. 令和4年度瀬戸内海の環境保全 資料集. 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会, 神戸. 101 + 33 + 110 pp.

久志本鉄平・柿野敦志・下村菜月. 2022. マンボウとヤリマンボウにおける体表模様による個体識別の可能性. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 19: 1–7.

松浦啓一. 2017. 日本産フグ類図鑑. 東海大学出版部, 平塚. 127 pp.

御前 洋. 2000. 定置網で漁獲された魚種について(6) 1999年の結果. 串本海中公園マリンパビリオン, 29(6): 4–5.

御前 洋. 2021. 定置網で捕獲された魚種について(15) 2010年1月~2020年12月. 串本海中公園マリンパビリオン, 50(5): 4–5.

宮脇逸朗. 1983. 水族館とびっくす No.22 ヤリマンボウ. 串本海中公園マリンパビリオン, 12(5): 5.

森 為三. 1956. 山陰地区隠岐群島を含む及びその附近海域の魚類に就て. 兵庫農科大学紀要, 2(3): 1–62.

中島東夫・入江正己・丸山清重. 1987. 和歌山の魚: 和歌山県立自然博物館展示解説第5集. 和歌山県立自然博物館, 海南. 91 pp.

中村乙水. 2017. 台湾ヤリマンボウ. 日本バイオロギング研究会会報, 135: 2–3.

Nyegaard, M., N. Lonergan, S. Hall, J. Andrew, E. Sawai and M. Nyegaard. 2018. Giant jelly eaters on the line: species distribution and bycatch of three dominant sunfishes in the Southwest Pacific. Estuarine, Coastal and Shelf Science, 207: 1–15.

大林萬鋪. 1999. 香川のさかな(市民文庫シリーズ22). 高松市図書館, 高松. 164 pp.

相良恒太郎・小澤貴和. 2002. 日本周辺におけるマンボウ類に関するアンケート調査結果. 水産海洋研究, 66: 164–167.

- 産経新聞. 2011. 迷いマンボウを保護 小豆島の漁港、沖合に放流. 産経新聞(香川県版)(2011年6月16日付), 22.
- 澤井悦郎. 2017. マンボウのひみつ. 岩波書店, 東京. 208 pp.
- 澤井悦郎. 2020. 写真に基づく青森県初記録および北限記録更新のヤリマンボウ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 5-9.
- 澤井悦郎. 2021a. 写真に基づく徳島県からのヤリマンボウ, ウシマンボウ, およびマンボウ(マンボウ科)の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 10: 1-6.
- 澤井悦郎. 2021b. 2000-2020年の12県における定置網によるマンボウ科魚類の漁獲データ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 10: 49-59.
- 澤井悦郎. 2024. ヤリマンボウにおける京都府からの確かな記録と伊豆諸島北部海域産個体でみられた舵鰭突出部の個体変異. *Nature of Kagoshima*, 51: 177-180.
- Sawai, E., Y. Hibino and T. Iwasaki. 2019. A rare river stranding record of sharptail sunfish *Masturus lanceolatus* in Fukuoka Prefecture, Japan. *Biogeography*, 21: 27-30.
- 澤井悦郎・山野上祐介・木村知晴・稲村 修. 2017. 日本海から2例目(富山県初記録)のウシマンボウ. *魚類学雑誌*, 64: 191-193.
- Seitz, A.C., K.C. Weng, A.M. Boustany and B.A. Block. 2002. Behaviour of a sharptail mola in the Gulf of Mexico. *Journal of Fish Biology*, 60: 1597-1602.
- 四国新聞. 2011. ふらりマンボウ 土庄の港. 四国新聞(2011年6月16日付), 23.
- 清水孝昭. 2013. 愛媛県瀬戸内海域より初記録の魚類. *南予生物*, 17: 14-35.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1-152.
- 立川淳也・宮島尚貴. 2018. 第9章 魚類 海水魚: 佐伯市沿岸で記録された魚類目録, pp. 381-405 + エクセルデータ付表. 佐伯市自然環境調査研究会(編)佐伯の豊かな自然~佐伯市自然環境調査報告書~. 佐伯市生活環境課, 佐伯. (<https://www.city.saiki.oita.jp/kiji0032247/>)
- 山田和彦・工藤孝浩. 1997. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・VI. 神奈川自然誌資料, 18: 73-78.
- 山本孝治. 1951. 但馬沖から採集された未記録魚の二、三に就いて. *兵庫生物*, 1: 74, 84-85.
- 読売新聞. 2011. Oh マンボウ! 土庄の漁港. 読売新聞(香川県版)(2011年6月16日付), 30.
- 吉田麻里子・澤井悦郎. 2019. 2019年正月に敦賀市気比の松原海岸に座礁したヤリマンボウとそれを食べるハシブトガラスについて. *日本野鳥の会福井県会報つぐみ*, 190: 13.